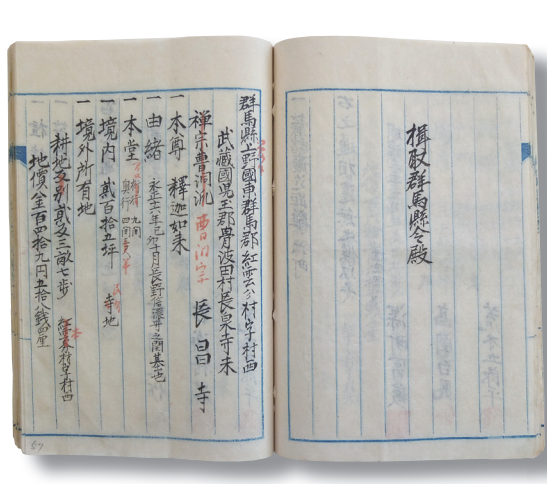


長昌寺年表

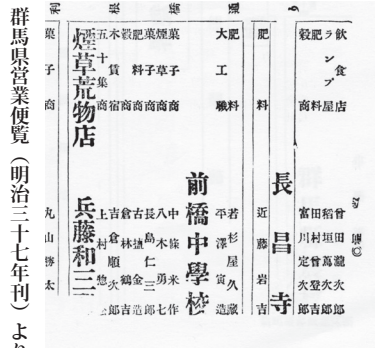
延徳 元（1489）年	長野方業、厩橋城を築き城主となる。
永正 六（1509）年	長野方業、伊香保温泉に入湯中の大洞禪師を招き、長昌寺を開創。
永正 一六（1519）年	長昌寺の創建、この年という別説あり。
天文 二（1533）年	長昌寺開基大洞禪師、武蔵国児玉郡の長泉寺にて没す。
天文 二二（1543）年	長野道安、厩橋城主となる。
永禄 元（1558）年	利根川洪水が原因で、現在の川筋になったという。
永禄 五（1562）年	長昌寺五世揚山英幡大和尚が南町に冷泉院開山。
永禄 九（1566）年	厩橋城主上杉謙信、北条丹後守を厩橋城代とする。
天正年間（1572〜91）	武田信玄が箕輪城を攻め、長野氏滅ぶ。
天正 一〇（1582）年	長昌寺揚山英幡大和尚が赤堀に寶珠寺開山。
天正 一八（1590）年	武田家滅亡により箕輪城に信長から派遣された瀧川一益が関東管領に権限を与えられ、厩橋城主となる。
慶長 五（1600）年	一益が城中や長昌寺で能興行を催す。信長滅亡後、北条直氏と一益が戦い、一益は伊勢長島に帰る。
慶長 六（1601）年	小田原の大道寺駿河守、村山佐渡守ら厩橋城の城代となる。
慶長 八（1603）年	徳川家康が秀吉より関八州を与えられ、平岩七之助親吉が厩橋城主となる。
万治 元（1658）年	長昌寺 明傳天察大和尚が下細井に眞珠寺開山。
万治 二（1659）年	川越の酒井重忠が厩橋城主となる。重忠、瀧海院を川越から岩神村に移す。
天和 元（1681）年	長昌寺 明傳天察大和尚が富士見に昌福寺開山。
享保 一四（1729）年	長昌寺、火災のため全焼。
寛延 二（1749）年	前橋城主酒井忠恭が姫路に転封となる。姫路の松平大和守が前橋城主。
明和 四（1767）年	長昌寺檀家の本城氏も姫路に去る。
寛政 一一（1799）年	利根川洪水により天守閣が崩壊し、前橋藩主松平朝矩は前橋城廃城を決め、川越に移る。
文久 三（1863）年	長昌寺の本堂庫裡など大徳寺（小相木）に五十五両で売り渡す。
慶応 三（1867）年	前橋城再築工事開始。
明治 一三（1880）年	前橋城再築が完成。大政奉還。
明治 一〇（1887）年	積善会発足する。
明治 一五（1892）年	県立中（現・前橋高）が紅雲町の長昌寺北に移転。
明治 三四（1901）年	市制施行し、前橋市となる。
大正 二（1913）年	長昌寺、火災により全焼する。
昭和 九（1934）年	長昌寺三十二世住職雲外仙洲没す。
昭和 一一（1936）年	前橋中が天川原に移転する。
昭和 二一（1945）年	長昌寺の本堂大改修工事が行われる。
昭和 二八（1953）年	八月五日、前橋大空襲により市街地の80%が焼失。長昌寺一帯は被災を逃れる。
昭和 四一（1966）年	長昌寺三十四世住職靈岳仙鳳没す。
昭和 四三（1968）年	長昌寺本堂庫裡の大改修が竣工する。
昭和 四五（1970）年	『交響詩曲ぐんま』の完成に、長昌寺三十五世住職栗木虔堂が関わる。
平成 元（1989）年	長昌寺保育園開設。園長栗木和子。
平成 一六（2004）年	同四九年長昌寺第二保育園開設。園長栗木虔堂。
平成 二三（2011）年	長昌寺開創五百周年。
平成 二四（2012）年	長昌寺三十五世住職順孝虔堂没す。
平成 二五（2013）年	3月11日東日本大震災により、本堂屋根瓦崩落。同年8月五百回大遠忌総代世話人会にて修復が決定。
	長昌寺保育園が大手町に移転新築。園長栗木久美子。
	本堂落慶式典。
	〔長昌寺五百年史〕より作成）



古社寺調査書類（明治六年調査）



明治三十四年の長昌寺全景
（上野名蹟図誌 第三巻より）



群馬県営業便覧（明治三十七年刊）より



修復が済んだ長昌寺全景



新しく移転した長昌寺保育園